Rocky Top PICKIN' SINGIN' GINZA かわら版 第47号

'99, 9, 27 発刊

Yeah! マネージャーNo.6 ～ホース脱ぐ事件～

作. チーフ井上

October

台風が次から次へと被害をもたらし、世界各地で地震が起こり、台湾は壊滅状態、世紀末、本当に何が起こるか分かりません。だからこそ毎日を確かに感じて生きましょう？そして音楽を愛して…

今月の田口マスターの動き

飲めばやせる薬に続いてまたしても通販で衝動買い！

◎非常に通販の誘惑に弱い田口マスター。こうえ切れずまたもや怪しげなグッズに手を出してしまった。

① ビデオラック(200～300本収納)…これはよしとしよう。

② 正座用イス …… 彼が見るとちょっこし悪いが優れ物らしい。来年の法事に向けてゲットした。

③ ブリーフ5点セット……ブリーフ派の田口マスター、こりゃやばいと思ったのだがサイズがちょっと小さくビチビチセクシー状態らしい。絵で書こうと思ったが気持ち悪そうなのでやめました。

④ 安眠まくら …… 買ってみたところ寝てばかり見て寝不足らしい

⑤ ダイエット器具 …… やせる薬に見事にだまされたマスター、やはり体を動かさねば…と「一日15分でみるみるやせます」のコピーにやられてゲット。しかし腹筋より脱の筋肉がきたえられそうな、これまた嘘くさいグッズだ。

だまされてもだまされても、まただまされる

そんな人間臭い田口マスターを暖かい目で見守るのみである。

コンベンションのトロフィー置いてます

トップ井上が受け取っている

去る8月の箱根フェスのコンベンションでチーフ井上が優勝して受け取った持ち回りのトロフィーが自慢気にロッキートップに置いています。ドアから入ってまっすぐつきあたりの壁の角っこにあります。何しろうちのボロアパートに置いといても自慢のしようがなく自慢するとしても、コンベンションの説明の前にフェスの説明、その前にブルーグラスの説明などするのは気が遠くなるほどめんどくさいのでロッキーに置いとけば説明いらずでよいと思ったわけです。来年もここにあるように…なんて思うと夜も眠れなくなります。 中沼さん

スタッフ丸山仕事見つかる！

エロビデオをチェックしまっす！

見事に朝の仕事を首になり路頭に迷っていた丸山がついにレンタルビデオ屋さんに雇われた。大森から行って環七ぞいにある「Eggs Train」という店だ。無愛想な彼には向いている仕事だと思う。返却ビデオを確認するのがエロビデオをチェックするのが楽しみらしく、確認と称して観賞しまくってるらしい…というのは想像だが、とにかく長続きすることを祈るのみだ。

Pick Up Live!

10/16(土) チーフ井上とフォークグリラボーイズ グラスワンダーランド

(100万回…言い過ぎ)

ちょー正統派ブルーグラスバンドと、ちょー異端的日本語ブルーグラスバンドの共演。フォークグリラボーイズは11月にCDをリリース！の予定だ。

10/21(木) Rocky Mt. Climbers Rise & Shine

イカしたボーカリスト小野ぶりこと可愛らしいフィドラー小麦ちゃんの夢の共演だ。(一緒にはやらないと思う。)対象的な個性をもつ女性ブルーグラッサーをお楽しみ下さい。それを支える男性陣も強力です。

10/23(土) スマのアイリッシュナイト！ ORPHAN Clover & Hay

ブルーグラスの原点とも言えるアイリッシュ。なんだか懐かしい、そして優しい気持になるハートフルな音楽です。じっとしたるもよし、ダンスするもよし、是非秋の夜にお楽しみください。

カントリーな人達 ～Meet The Country～

「大野義夫さんとその音楽人生」②

とにかく汗を流して一生懸命

―ワンマンショー武勇伝―

→昭和35年5月7日、グランド・オブ・オーデリーのステージに大野さんは立った。25才の時だった。曲は「コロンブス・スタンダード・ブルース」バンジョーを弾きながら熱唱する東洋人を初めて見たアメリカ人、会場割れしばかりの拍手とアンコールだ。それに応えてヨーデル部分をリクレイムした。そして2部のステージでチャンピオンがあったため、大野さん再びステージに立つ。「アイル・ハバン・ミルクセン」を歌い、これまた大喝采を浴びた。日本でも新聞、ラジオそして報道され騒がれた。しばらくシアトルでバンジョー修業したのち、帰国。**日本で初めてう弦バンジョーを弾ける人**として多くの人に紹介された。その中には**マイク真木**もいる。そしてグアム島、フィリピンと米軍基地でのショーを行う。アメリカ人相手の1時間(1晩に2回!)でカントリーソングワみなうず"エンターテイメントのコツを身につけていった。その中のいくつかを紹介しよう。つまりは**日本人であることのコンプレックスをメリットに変えていった**「You Know this is the Banjo. You say Banjo. In Japan say "便所" と言ってバンジョーを紹介したり。「My Name is Yoshio Ouno. You know? oh No! means ダメ! ダメ! No Good! But someones say "Oh! Yes!" また、歌詞を忘れると、日本語で歌い「If I sing in japanease, If I sing in English, Means same!」と言うと、みんな、ok! ok! だった。そしてお客さんを引っぱりだし、ヨーデル指導。しかも**空手もやりながら**エイ！エイ！をエーイ、エーイと集声にて教え、出てきたお客さんには**盆栽のお面**をかけた。「ジャパニーズ・ルンバ」ではヨーヨー使い「七夕の夜」という所で"Sheaingot no Yo Yo"と歌いながらヨーヨーを回したり、一生懸命やってるのをみせるために水を何杯も飲んで汗を流し、バンジョーもエレキ化して客席に飛びおり、ジミヘンのように肩にかついで弾き、外人相手に月60本のステージをこなした。今では体力を保つため**2時間半のトレーニング**(腕立、腹筋、背筋、ランニング)をしている。マイナーなカントリーの世界だからこそ、歌い続けることができた。悔やしいけど、これでよかった。いつまで歌えるか分からないけど、とにかく続けて、そして人を楽しませるんだ!? 大野さんの強さと暖かさをとても感じました。→10/15(金)に出演！